

2010

FIWC PHILIPPINE CAMP REPORT



School Project

In Sto. Rosario Elementary School

2010年春 FIWC 九州フィリピンキャンプ発行

# もくじ.....♡

- 1. はじめに …P2
- 2. FIWC とは …P3
- 3. 人物関係とワーク地…P4
- 4. 日程 …P5
- 5. ワーク …P6~
- 6・KP  
(Kitchen Police) …P18~
- 7. イベント …P20~
- 8. 会計 …P26~
- 9. 保健 …P29~



- 10. ホームステイ …P31~
- 11. 文房具集め隊★ …P33~
- 12. 生活状況 …P36~
- 13. Tシャツ …P38
- 14. 他己紹介 …P39~
- 15. 感想 …P43~

## 1. はじめに

F I W C がもたらすワークキャンプの可能性とは…？

誰もがF Iに入った時から今も、そして今後も考えることになるこの問いかけ。それぞれの目標と照らし合わせながら12人のキャンパーが動き、心から笑い、悩み、前に進もうとしました。夏の下見が終わってから集まった12人で、ミーティングを何度も行い、この可能性を少しでも広げるよう続けた努力、そのときの気持ち。これを大切にして、また来年以降のキャンプにつなげていきたいと思います。

本キャンプテーマ

### 共生 ～Smiling Future～

フィリピンと日本の人間と一緒に暮らすという非日常で「共に生きる」ということの意味を学びました。文化も宗教も違う国……世界ではこれが火種となり戦争にまで発展することもあります。しかし、お互いが尊重しあい、認め合おうとすればこんなに楽しいことはありません。食べたこともない食材を食べ、聞いたこともない音楽で踊り、見たこともない酒で飲み明かす…共生の意味を知れた気がしました。

そして、サブタイトルは今回初めて小学校で行ったワークにつながっています。ここの小学生が、不自由なく勉強して、社会に出て責任ある立場になったとき、フィリピンを引っ張って行ってほしい。「今私たちが守る子供たちの笑顔が、笑顔あふれる未来を創っていく」との意味を込めています。下見のときいつも太陽のような笑顔を見せてくれた子供を見て、これを守りたいと思ったのがきっかけです。

キャンプを振り返ると、今回のワークは想定外のことが多く、予定していた内容を終えることはできませんでした。他にも至らない点が多々あり、今も悔やむことがあります。しかし、今の自分たちがやるべきことは「後悔」ではなく、「反省」だと思います。このキャンプで学んだことをしっかり反省し、次に活かす。こうして、F I W Cの今後やキャンパーそれぞれの人生の可能性が広がっていけば、と思っています。

最後に、想像以上に大変だったキャンプにもかかわらず、全員が無事帰国できたのはこのキャンプを支えてくれた方々のおかげです。キャンプ地であるサントロサリオ村の人をはじめ、ロクロクさんやマヌエルさん、OB・OGの方々、サンセバの村人や市長、日本から応援してくれたFIのみんなや友達、そして自分たちの決意を応援してくれた保護者の方々に心から感謝します。本当にありがとうございました！ **Daghan Salamat!**

2010年 フィリピンキャンプリーダー 岩永 慎也

## 2. FIWCとは

FIWCとは、フレンズ国際ワークキャンプ（Friends International Work Camp）の略称である。

FIWCの起源は、第1次世界大戦直後までさかのぼる。当時、オランダで開かれた国際友和会の会議に参加したスイス人のクエーカー教徒ピエール・セルゾールが国際ワークキャンプを提案、戦争で破壊された場所についてキャンプを呼びかけ、その運動の輪は次第に広がっていった。これが世界初のワークキャンプだったのである。

日本にこのワークキャンプの運動が伝わったのは、第2次世界大戦後の1945年にアメリカ・フレンズ奉仕団（AFSC）が「広島の家」建設キャンプを行った時である。この活動がきっかけとなり、学生を中心とした日本ワークキャンプ委員会が組織され、運動が全国に波及していったのである。

現在のFIWCはこの運動を受け継ぐもので、1950年代より日本国内外で様々な活動を展開している。現在では、関東、関西、東海、広島、九州に各委員会（＝支部）があり、それぞれ情報交換をしつつ、自律的な活動をおこなっている。

FIWC九州は、2004年4月に、関東、関西、広島の各委員会で活動していたメンバーが九州に集まり立ち上げた新しい団体であり、2005年春、初めてのキャンプをフィリピンレイテ島で行った。現在では、フィリピン、中国、及び国内での活動を展開している。フィリピンではレイテ島にてインフラ向上を目的とした活動を、中国ではハンセン病回復村にてインフラ整備・デイリーケアなどの活動を行っている。国内では、フリーマーケットや学祭での出店による資金集め・大分県耶馬溪での農業キャンプを行っている。

また、FIWCはワークキャンプという活動で学んだことを多くの人に伝えること、フィードバックすることを大切に考えている。FIWC九州では他団体と交流したり、ニュースレターの発行をして情報を発信したりするほか、FP(FIWC Party)というイベントを月に一度開き、FIメンバーと新入生を交えてワークショップを行ったり、国際協力に関する映画を観ることで自分たちの自己啓発につなげている。

参考：FIWC 関西 「35年の歩み」



### 3. 人物関係・ワーク地

#### ◎NorWeLeDePAI (North Western Leyte Development Parent's Association Inc)

FIWC 九州と、2004 年の下見から協力体制をとっている現地の NGO 団体。FIWC 関東とも協力しており、フィリピンにおけるワークキャンプでは重要な存在である。この団体は、レイテ島北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っており、世界的な NGO である World Vision のドイツ支部から資金援助をうけている。今回のキャンプでは、貴重品の保管、Partnership Agreement の作成、ホームステイに関する規約書の作成などでお世話になったほか、約 12 万円もの資金援助をしてくれた。

#### ◆ロクロクさん      **Project Engineer**



1994 年から FIWC 関東の活動に参加していて、FIWC 九州発足後は、私達の活動にも参加してくれているエンジニアで、今回のプロジェクトの指揮をとってくれた人物。ビサヤ語と英語、日本語を話し、FIWC に深い理解があるため、新しい村でワークするときなどに、私達に代わって FIWC のことを説明してくれる。マジックが得意で、会話ではジョークも交える気さくで面白い人。私達にフィリピンの文化・国民性などを教えてくれる。FIWC のお父さんの存在。

#### ◆マヌエルさん      **Project Assistant Engineer**



ロクロクさんのアシスタント。ロクロクさんとは長い付き合いで信頼関係も厚い。普段はもの静かだが、ワークが始まると豹変し、指示とジョークをとばしまくる。ときどき踊ったりとお茶目な一面を見せたかと思えば、ワークのちょっとしたミスに厳しかったりと、とても一生懸命であつ人。FIWC 九州としての活動は 2 回目で、今後も関わってくれる。

#### ◆ロジャー      **Leader of BRGY Sto.Rosario**



今回ワークをした村、サントロサリオ村のカピタン (村長)。大きな体格で非常に抱擁力がある。性格は非常に大らかで、キャンパーがなにか問題を起こしても「おけら！ (大丈夫!）」と言っていつも許してくれた。とても責任感が強く、村人思いの優しい人。

#### ◎マタグオブ市

サントロサリオ村が所属する市。FIWC が近年プロジェクトを行っている地域。今回のプロジェクトでは、不足した資材費やお別れパーティーなどの面でお世話になった。市長のマイケルは FIWC の活動に理解を示してくれていて、とても協力的である。海と一緒に遊びに来てくれたり、メンバーの誕生日にはケーキをプレゼントしてくれたり、そして顔がガッツ石松に似ていたり、なにかと面白い人である。

◎サントロサリオ村◎サントロサリオ小学校 …5 ワーク、I. ワーク地参照(7 ページ)

## 4. 日程

### ●スケジュール

12月18日	第1回ミーティング@あすみん
12月26日	第2回ミーティング@あきら宅
1月7日	第3回ミーティング@あすみん
1月16日	第4回ミーティング@あすみん
2月11日	第5回ミーティング@あすみん
2月13日～2月14日	国内合宿@
2月16日～3月16日	本キャンプ先発隊 (29日間)
(2月23日～3月16日)	本隊 (22日間)
3月19日	第1回帰国後ミーティング@あこ宅
4月17日	第2回帰国後ミーティング@あすみん
4月24日	報告会@びおとーぷ

### ●キャンプ期間スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
14	15	16	17	18	19	20
国内合宿		先発隊出発!	ノルウェルとMTG オルモックで 資材購入	GAM	資材到着	ホームステイ調査
今宿		フィリピン入国				
21	22	23	24	25	26	27
続ホームステイ 調査	*フィリピンの休日 サンセバ訪問	タクロバンで ビザ取得 本隊出発!	Welcome Party★	ワーク開始①	ワーク② のりぴー Birthday♪	青空教室 スイカ割り
28	1	2	3	4	5	6
サンセバ訪問 ホームステイ MTG	ワーク③	ワーク④ 文房具贈呈式	ワーク⑤	ワーク⑥ ホームステイ 開始	ワーク⑦	Japanese festival★
7	8	9	10	11	12	13
サンセバ訪問	ワーク⑧	ワーク⑨ びよこ Birthday♪	ワーク⑩	ワーク⑪	ワーク最終日⑫ ダグハンMTG	ワーク仕上げ 海!!!
14	15	16	17	18	19	20
Farewell Party★ カレー作りetc...	サントロ出発 オルモックで 買い物	日本帰国			帰国後MTG あこの家	

#### ※GAM(General Assembly Meeting)

…通称ジェネアセ。村人を集めてワーク、FIWC について説明をし、理解を得る場。総会のようなもの。

※サンセバスチャン村(サンセバ)…昨年、2009年のワーク地。昨年は橋建設を行った。

※マラサルテ村

…5.ワーク③マラサルテ参照(17 ページ)



## 5. ワーク

### ① 2010 ワーク報告

#### 【概要】

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市サントロサリオ村

期間：2010年2月25日（木）～3月12日（金）

内容：①小学校のフェンス作り

②小学校と周辺地域の水道システム整備

③小学校内の建物の修理

費用：村・FIWC・<sup>ノルウェルディバイ</sup>NorWeLeDePAI（現地 NGO）・マタグオブ市・サントロサリオ小学校より

参加者：FIWC キャンパー

現地エンジニア（ロクロク/マニュエル）

村役員（BRGY オフィシャル）

村人ボランティア

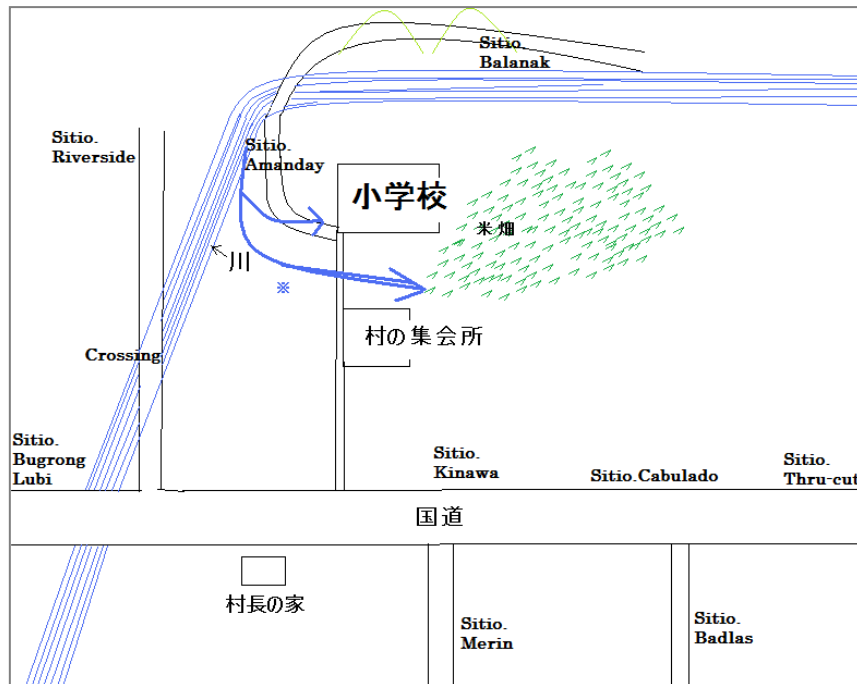
保護者（サントロサリオ小学校に通う生徒の）

今回のプロジェクトはサントロサリオ村・FIWC・NorWeLeDePAI が資材費を分けて出資する大きなプロジェクトだった。さらに、マタグオブ市からは資材や昼食用の米、小学校からは親のワーク参加という形で支援を受けた。実際に労働したのは、エンジニアのロクロクさんとそのアシスタントのマニュエルさん、バヤニハン(村役員、村人ボランティア、保護者)と FIWC キャンパーである。



## 【詳細】

### I. ワーク地について



#### ・サントロサリオ村

世帯数 450 世帯、人口 5,000 人以上に及ぶマタグオブ市内の中でも大きな村の一つ。特徴として子供が多い。広い土地柄を利用して、米などの作物を作り生計を立てている村人が目立つ。比較的低位にある上、村内に大きめの川が流れているため、洪水が起こりやすい地域である。洪水は過去に死者が出るほど深刻な問題である。この村は、9つの集落(シテリオ)から成る。今回のワークは学校のあるプロパーとシテリオ、アマンダイ(約 70 世帯)で行った。(図参照)また、ノルウェルの管轄地であるため、今回ノルウェルの協力を得ることができた。

#### ・サントロサリオ小学校

生徒数 315 人の大きな小学校。サントロサリオ村中の子供がこの学校に通っている。学校は川より低位にあるため、隣の市で雨が降った場合でさえ、洪水の被害を受けることがある。2007 年 7 月の台風時には学校のフェンスや一部の校舎が破壊され、下見時は洪水に対して無防備な状態であり、大雨時には休校や生徒を途中下校させていた。市や村、ノルウェルなど皆がこの状況を長年懸念してきた。また、学校には水が通っておらず、徒歩 5 分程の国道付近まで水を汲みに行かなければならないことも問題であった。このような状況を考慮して、私たちは今回のワーク地をサントロサリオ小学校に決定した。



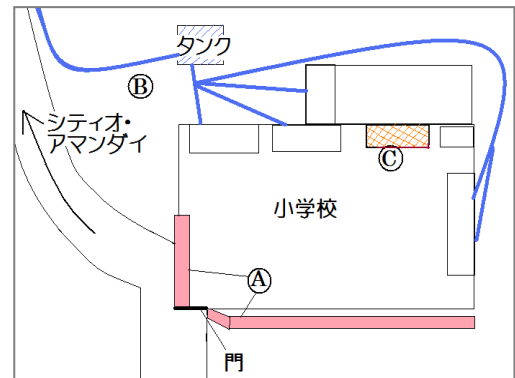
## II. ワークについて

今回は小学校を中心とした3つのワーク(A~C)を同時進行で行った。

### 【人員】

一日40人程度。内訳はFIWC(12名)、村役員(約6名)、保護者(約15名)、村人ボランティア(約7名)である。村役員の男性はワークに、女性は昼食・スナック作りを担当する。また、サントロサリオ小学校に通う生徒の保護者は、子供の数だけ出勤することが義務となっていて、ワーク後に出勤簿をつける。村人ボランティアには、若い世代や女性が多かった。

毎朝、ロクロクさんがそれぞれのワーク内容を決定し、それに応じて人数配分を行った。しかし、3月が作物の収穫期間であったので、十分なバヤニハンが集まらない時もあった。



### 【スケジュール】

7:50 … 日本人キャンパー集合

8:00~11:30 …ワーク

11:30~13:30(※13:00)…昼食・休憩

13:30(※13:00)~17:00(※16:30)…ワーク

※バヤニハンのワーク終了時間を早めたいという要望から、3月よりバヤニハンのみ休憩を30分早めに切り上げ、16:30にワークを終了することに変更。FIキャンパーは自分の健康状態に合わせて13:00~13:30の間にワークに参加するようにした。

### ④ 小学校のフェンス作り

期間：2010年2月25日(木)~3月12日(金)

人員：エンジニア+FIWCキャンパー(約8名)+バヤニハン (skilled worker※+helper)

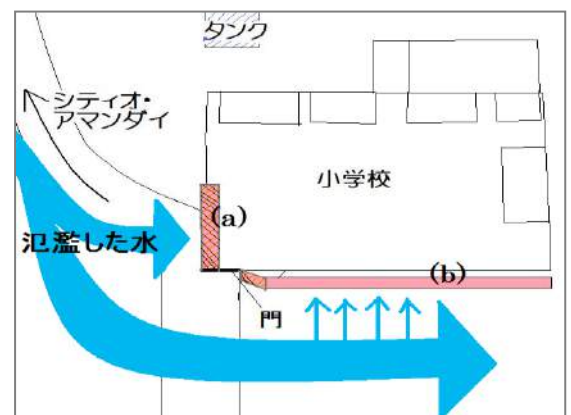
※skilled worker=mason(石工)やcarpenter(大工)のこと

内容：学校の周り(二辺)にフェンスを作り、校内への浸水を防ぎ、校舎と所有物を守る。

耐用年数約40年。

(a)は40m,(b)は90m。

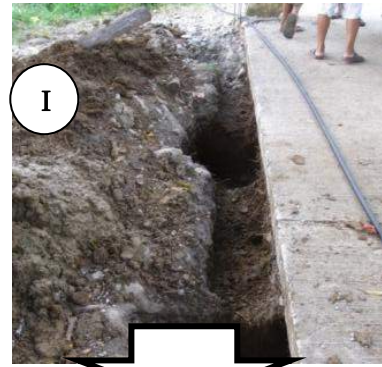
フェンスの(a)の部分は水の流れを妨げるように受けるため、(b)よりも強化。また、それぞれ約3mおきに支柱(ポスト)を立てる。



ワークの流れ：

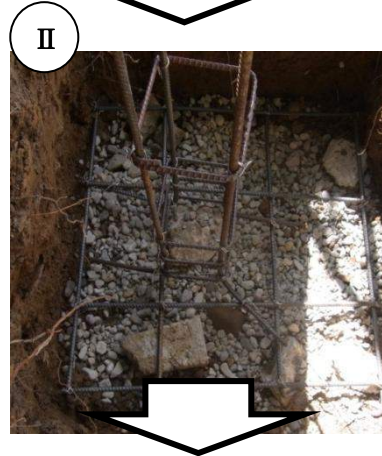
### I. 穴掘り

フェンスの土台となる部分の穴を掘る  
(幅 30cm、深さ 40cm)。  
支柱になる部分は正方形に深く掘る(深さ 80cm)。



### II. 骨組み作り

鉄筋を使って、ポストの土台やポストの基礎となる骨組みをマニユエルさんやskilled workerが中心になって作る。  
それらを 80cm のポスト用の穴に設置する。  
また、ハローブロックを積み上げる基礎として、梯子型の鉄筋を深さ 40cm の穴の中に敷いていく。



### III. セメントを流し込む

小石・砂・セメントを 3:3:1 の割合で混ぜあわせ、  
II で穴の中に設置した鉄筋を覆うようにセメントを流し込んでいく。



### IV. ハローブロック並べ

(a)には規格 6 のハローブロックを、(b)には規格 4 のハローブロックを、基準ラインとして張ってあるナイロン線に合わせ、地下から地上に向かって 9 個ずつ(地中は 2 個、地上に 7 個)積み上げていく。  
その際、セメントで間を埋めいく。この作業はまっすぐにブロックを積み上げるために技術があるので、mason(石工)が中心になって行う。ここで使用するセメントは砂とセメントのみを混ぜ合わせたものである。



#### V. 支柱のセメント流し込み

支柱の骨組みにマニユエルさんや carpenter(大工)が作成した木枠を取り付ける。その中に、小石入りのセメントを流し込む。固まるまでに3日必要だが、今回は日程上の問題から半日から1日で取り外す。8個の木枠を使いまわしていくため、一日に作成できる支柱は8個まで。支柱の数は全部で43個である。



#### VI. フィニッシング(最終工程)

ハローブロックを積み上げ後、洪水時には水と接する(a)、(b)の塀の内側と来校者の目に付く(a)の塀の外側に、上質のセメントを薄く塗っていく。このセメントはふるいにかけて砂とセメントを2:1で混ぜたものを用いる。この工程は技術を要するため、BRGYが専門のmasonを2人(1名は3日間、1名は4日間)雇い、彼ら中心に作業した。セメント不足のため、(a)の外側が一部を終えられなかった。



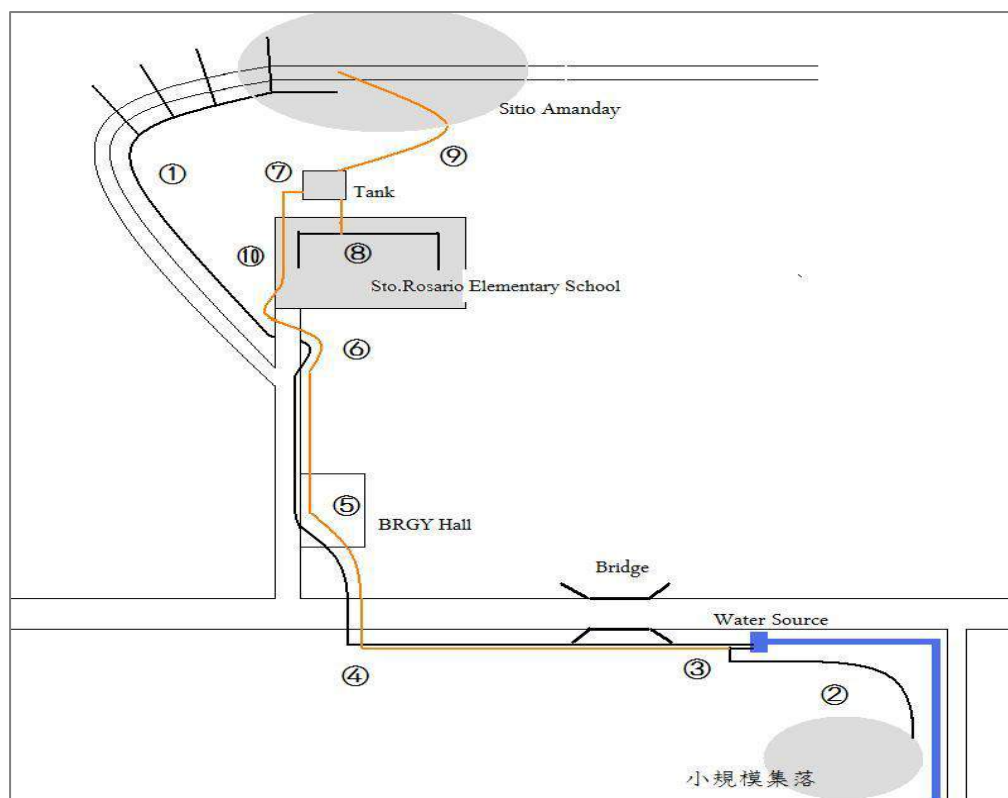
#### VII. 穴埋め

フェンスの周りの隙間を土で埋め、足で踏んで地均しする。

これらの作業をいくつかのグループに分け、並行しながら進めた。日本人はすべてのグループにいるようにした。Vの作業の一部は3月12日までに終了出来ず、残ったポストの木枠はずしを3月13日に一時間程度、skilled worker 1名とFIWCキャンパーで行った。

(a)の外側の一部と(b)の内側のフィニッシングは今回のワークでは終了することが出来なかったが、今後、学校が独自に進めていく予定である。これに関して、NorWeLeDePAIにFIWC帰国後のEvaluationを依頼した。FIWCも同様に、今後のキャンプでEvaluationを行い、進行状況を確認していく必要がある。

### ⑧小学校と周辺地域の水道システム整備



- ・ 期間：5日間(2月25・26日、3月1・3・4日)
- ・ 人員：FIWC キャンパー(1~2名)+skilled worker(Waterman)+helper
- ・ 内容：サントロサリオ小学校には FIWC 九州到着前に、昨年に NorWeLeDePAI より寄付された金属製の pipe 等を用いて、すでに学校側が小学校内の Water System の整備(8)を完了していた。一方、Sitio Amanday には Water Source (3)より一時的な水道管(1)が接続され、スケジュール制によって水が村人へ届けられていた。しかしながら、十分な水量は届いておらず、一時的なものであることから、ワークが行われることとなった。

GAM が日程より早く終了したことと、このワークが1日程度で終了する想定を受け、当初は2月25日に3つのワークを同時にする予定を変更し、2月19日に行うことになった。しかしながら、19日当日に当初の計画では pipe を通す①の地域がほかの地域に比べて標高が高く、水が登りきらないことが判明した。このため、異なる計画で2月21日にワークを行うことになった。2月21日はマニユエルさんのみワークに参加したが、ワーク開始直後、マニユエルさんと BRGY の Waterman(Skilled Worker)の間に計画のずれがあり、ロクロクさんがワークに参加できる2月25日へ延期することになった。そしてその後、BRGY との最終確認を含め、既に全ての pipe が接続されている Water Source のどの pipe に今回の pipe を接続するかの協議を行った上で、以下の計画で行われることとなった。

Ⅰ Water Source の pipe から直接穴をあけ、  
図の下部に位置する小規模集落へ pipe  
を接続する。

Ⅱ Water Source より小規模集落への pipe  
を切る。

Ⅲ 切った pipe を Sitio Amanday への一時  
的な pipe に沿って、伸ばしていく。

Ⅳ 新しい pipe を接続していき、道路下のト  
ンネル(④及び⑥、写真Ⅳ参照)を通し、学  
校裏の tank に繋ぐ。

Ⅴ tank より小学校の Water System に接続  
する。一方、Sitio Amanday へは標高の高  
い地域を迂回して、pipe を通す。



- ・記録：2月25日ー Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを終了する。Ⅳで小学校へ入った⑩の位置で pipe が足りな  
くなり、この日は終了する。
- 2月26日ー 小規模集落への pipe のうち使用していない余りを前日の pipe に繋ぎ、  
tank まで pipe を延長する。
- 3月1日ー 学校の Water System に pipe を接続する。しかし、途中で pipe を切り、  
Fence の建設用のセメント作りのために使用する。
- 3月3日ー tank 内の清掃を行う。
- 3月4日ー 異常気象による水不足で水圧が下がっているため、tank まで水が登ら  
ないことが判明し、延期する。



今回のキャンプではこの時点でワーク終了となる。当初の計画が終了しなかった理由として、Water Source の水圧の低下があげられる。異常気象によって降雨が全くなく、フィリピン全土で水不足が発生し、FIWC 九州到着後、サントロサリオ村でも多くの家で水が使えなくなった。このため、水が tank まで登りあがることができなくなり、Sitio Amanday へ水を送ることが不可能となった。同時に⑤や⑩の地域でも水不足により、以前使用していた pipe からも水が出なくなった。これらの地域の住民はワークで小学校まで通した pipe から飲料水及び生活用水を得ていた。このような背景から、小学校へ直接 pipe を繋ぐ案も出されたが、今回は延期し、小学校へは接続せず⑩の位置で pipe を止めることに決定した。これにより、小学校へ水を送るというワークの目的は達成されないものの、pipe 周辺の住民が水を得られるようになった。

今後、異常気象が終わり、水状況が通常に戻り次第、BRGY がロクロクさんと連絡を取り、ロクロクさんが BRGY の Waterman と共にワークを継続することとなった。それに関して、NorWeLeDePAI に他のワークと共に Evaluation を依頼し、私たちにワークの進行状況の報告などをお願いした。FIWC 九州も継続してロクロクさん及び BRGY と連絡を取り、Sitio Amanday とサントロサリオ小学校へ水を届けるという今回のワークの目的が達成されるように努めていきたい。

### ◎学校内の建物の修理

期間:2010年3月～3月12日(金)

人員:エンジニア+FIWC キャンパー(約3名)+carpenter(大工)+helper

内容:台風の被害と老朽で壊れかけた施設(保護者のミーティングや子供たちの休憩・食事時に使われる)を修理する。一度朽ちた建物を骨組みから修理していく。耐用年数は約40年。

ワークの流れ:

#### I.取り払い

既存の建物の天井部分の骨組みを取り払う。その後、建物の崩壊を防ぐため仮の柱を設置。

#### II. 穴掘り

建物の柱の土台となる15か所に正方形の穴(深さ80cm)を掘る。コンクリートの碎く作業でかなり力があるので、バヤニハンや日本人の男性が作業。

#### III.骨組み作り

マニュエルさんが、鉄棒を使って柱の土台となる骨組みを作る。

#### IV.土台作り

IIで掘った部分にIIIで作った骨組みとその周りに木枠を設置する。

その木枠の外側に大きめの石を投入しながらセメントを流し込んでいく。



FIWCのワーク期間中にはIVの途中でセメント不足及び木材の調達遅れにより、ワークが中断した(右写真)。5月の選挙のために資材価格が高騰しており、セメントがこれ以上購入できなくなること、BRGYの政治的問題により、FIWC訪問前に資材をそろえるという約束が守られず、ワーク最終日に必要な木材が配達されたことがワークを終了出来なかった大きな要因である。



エンジニアのロクロクさんと相談した結果、3月22日～3月24日にロクロク・マニユエルと村の skilled worker(4名)で残りの建設を行うことになった。その際、エンジニアには交通費のみ、skilled workerには給料を支払う(給料欄参照)。進行度合いはロクロクさんと随時、連絡を取り合って確認する。同時に、NorWeLeDePAIにも協力を要請し、建物の建設状況を確認してもらうことにしている。

#### 《反省》

- ・自分たちのキャパシティを考慮して、ワーク(の数)を決定すべきだった
- ・下見から本キャンプまでの間に、資材の確認をきちんとすべきだった
- ・先発期間中に、資材不足などの問題に迅速に対応すべきだった
- ・ワークリーダー間の情報共有がうまくできなかった
- ・ワーク中に必要なもの(軍手・飲み水)の管理がしっかりとできなかった

#### 《今後》

残されたワークについて、現地関係者と綿密に連絡を取りながら、完成が確認できるまで責任を持つ。また、次のキャンパーに今回の件を確実に伝えて、今後このようなことが起こらないようにする。

②FIWC 資材詳細

●2月17日 P99,036 (オルモックにて)

内訳)

資材名	量	単価 (p)
Cement	225bags	205
Tie wire16#	1roll(50kls)	2,100
Ord nail 4#	1box(25kls)	1,020
Ord nail 5#	10kls	52
Ord nail 2 1/2#	8kls	54
Ord nail 2#	2kls	54
Ord nail 1#	1kls	56
umbrella nail	15kls	90
Jacksaw blade	5pcs	65
Ord plywood 1/4#	5sheets	270
Shovel	10pcs	210
Postrap 1/4×2×20	10pair	140
Postrap 3/16×2 1/2×18	5pair	120
Machine bolt 1/2×6	20pcs	90
Machine bolt 1/2×4	10pcs	90
Marine plywood	4shhets	890
1 1/2# PE pipe	1roll	10,380
1# PE pipe	1roll	7,000
3/4# PE pipe	2roll	6,500
Construction pail	10pcs	68
Pickmatik without handle	2pcs	2

●追加分

日付	資材名	量	単価(p)	合計(p)	場所
2月19日	Hallowblock	500pcs	14(1gasoil)	7,500(500)	カナンガにて
2月24日	Nylon	1roll	90	90	オルモックにて
2月28日	ガムテープ	1roll	40	40	マタグオブにて
3月1日	GI T pipe 1#	1pcs	24	24	
	Naple 1#	3pcs	18	54	
3月4日	Hallowblock			2,000	カナンガにて

●合計

<b>FIWC 資材費合計</b>	<b>P108,744</b>
-------------------	-----------------

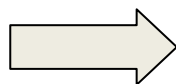


○費用について

●資材費●

予算(p)

FIWC	100,000
村	70,000
NorWeLeDePAI	60,000



実際(p)

FIWC	108,744
村	69,774
NorWeLeDePAI	60,000

+ マタグオブ市寄付 セメント 5 袋

●給料●

◎村【フィニッシング専門のMason(石工)】

→ワークの終盤に技術者が不足していたため、

BRGY が 2 名雇った

	日数	日給(p)	全体(p)
リッキー	3 日	300	900
ドドン	4 日	300	1,200

◎FIWC 【エンジニア】

→FI プロジェクト間に就労できないことを考慮し、感謝費を渡した。

	日数	日給(p)	全体(p)	交通費(p)	合計(p)
ロクロクさん	15 日	500	7,500	1,025	8,525
マニュエルさん	15.5 日	500	7,750	980	8,730

- ・ 2 人は基本的に平日は BRGY ホールに寝泊まりし、土日は帰宅した。
- ・ 食事は村から無料で提供された。

※当初、ロクロクさんは病気のため、週 2 回程度ワークの監督に来る予定だった。しかし、ワークが複数あることやロクロクさんの希望もあり、結果的にワークのほとんどに参加してくれた。その状況や FIWC からの治療費カンパ代(約 2 万円)を考慮し、ロクロクさんの日給は P 500 に決定した。

○FIWC 帰国後のワークの給料について

→今回、終えることの出来なかった校舎修理のワークの際、BRGY と小学校が村の大工(skilled worker)を 4 名雇う。ロクロクさんとマニュエルさんは、ボランティアとして働き、FIWC が交通費のみ支払う(次回下見にて支払う予定)。

◎村・小学校

	日数	日給(p)	全体(p)
Skilled worker(4 名)	3 日	400	1,200

※村と小学校はこの資金を Farewell Party での Flower Dance(イベント参照)と現地人の社交ダンス(女性と男性が踊り、終わったらどちらもお金を寄付するダンス)で集めた。それぞれ約 P3,000 ずつの寄付があり、合計 P6,000 の寄付を得た。このお金を大工の給料や資材費に充てる。

◎FIWC マニュエルさんとロクロクさんの交通費(一往復分)

P170×2 人=P340

### ③マラサルテ

2008 年度及び 2009 年度の下見で訪れた村。数年前の台風の被害により水源の貯水タンクが壊れ、水質が悪化したため、毎年、腹痛を訴える村人が多数出る。緊急性や村人のニーズも高いように思われ、2009 年の下見ではワーク地最終候補にサントロサリオと同じく残った。しかしながら、BRGY が独自で貯金をしていることやサントロサリオの方がニーズ・緊急性がより高いと思われたため、サントロサリオで今回のワークを行うことが決定した。今後、FIWC は村と交流を継続していくことになったが、下見に同行していたダディ・ドドン（前マタグオブ副市長）がロクロクさんと 2 人で貯水タンクのみ、ボランティアで作る約束を村長と結んだ。

このような背景から今回のワークキャンプでは、3 月 7 日にダディ・ドドンと FIWC キャンパー数人でマラサルテを訪れた。2009 年の下見後、ロクロクさんが体調を壊したため、ワークは行われておらず、下見時の村の状況から変化は見られなかった。村長との MTG では、BRGY は既に P20,000 必要な貯水タンク費用以上の P28,000 を貯めており、資金は問題ないことが分かった。また、村長が 3 月 8 日にマタグオブ市役所に赴き、市のエンジニアに設計図を描いてもらい、その後、ロクロクさん及びダディ・ドドンに連絡する予定を伝えられた。だが、FIWC 滞在中には連絡は来なかったため、私たちが直接、プロジェクトの完成を見ることは出来なかった。

2008 年の下見より村の状況に大きな変化がなかったが、FIWC 訪問で前向きな姿勢を表した。このことから私たちの訪問が、村人自身がより安全な生活を手に入れる意欲になり得るように考えられる。今後、継続してマラサルテの状況は調査していく必要がある。



## 6. KP(Kitchen Police)

### ①出発する前にすべきこと

- ・初日からホームステイまでの食事洗濯係のシフトを決定する。
  - ・ホームステイからワーク終了日までの食事洗濯係のシフトを決定する。
- \*シフトを、ホームステイを境に分けたのは仕事の量と内容が若干異なるため。後半のほうが（今回のキャンプでは）仕事が減ったので前者は4人、後者は2～3人が適当であった。それぞれのシフトでメンバーの負担が均等になるように心掛ける。このとき、ワークリーダーが2人共同じ日に入らないほうがよい。また、KPの係りの人は積極的に仕事を覚えて、他メンバーに早く仕事を教えられるようにシフトを工夫するとよい。

### ②仕事の内容

- ・朝、メンバー全員分の洋服の洗濯をして（ワークが控えている平日は空いた時間のできることを見つけて時間短縮を心掛ける）、ワーク後にその洗濯物を取り込む。
- ・毎食後の洗い物を手伝う。
- ・ワーク後にその日の食材を買い出しに行き（今回は先発期間のときは約150ペソ、本隊到着後は250～300ペソ程であった）、KP会計の記録をつける。
- ・村のcaptainと、本隊到着からホームステイまでの間、どこで食事をとればいいのかを話し合う（先発隊のKP）。
- ・イベント時に食材の支出があるときは他メンバーと話し合っって予算を決める。

### ③食事と洗濯について

#### [食事]

- 1 本隊到着まで(2/16～2/23)  
→カピタン家でご馳走になる。
- 2 本隊到着からホームステイまで(2/24～3/3)  
→朝と夜は、毎回カピタンまたはカガウッドの家に250～300ペソ分の食材(肉や野菜を食事洗濯係が前日に市場にて購入)を渡して作ってもらう。
- 3 ホームステイ中(3/4～3/13)  
→各家ごとに、会計から1500ペソが支給され、各々が毎日食材を買ってホストファミリーに渡す。

#### [洗濯]

- 1 本隊到着まで  
→カピタン家の洗濯機を借りて洗濯。
- 2 本隊到着からホームステイまで  
→たらいを用いて村の水源タンクのところで洗剤を買って手洗い。
- 3 ホームステイ中  
→各ホームステイ先で洗濯。

#### ④食費報告

日付	内容	金額	備考
2010/2/17	水、パン	192	
	昼食	547	
2010/2/18	水	250	deposit 含
2010/2/21	肉じゃが用食	457, 5	
2010/2/23	食料	150	
2010/2/24	食料	328	
2010/2/25	食料	245	
2010/2/26	食料、水	509	deposit 含
2010/2/27	食料、水	373	
2010/2/28	食料	250	
2010/3/1	食料、水	297	
2010/3/2	食料	250	
2010/3/3	食料	146	
2010/3/13	食料、コーラ	1,672	Beach Party
2010/3/14	食料、飲料	3,000	Farewell Party



※(3/13)Beach party の counter part(費用の内訳)

→豚とコーラ：1,672ペソ

カピタンのナナイと一緒に行動を共にして買い出しを行った。

#### ③反省

- ・今回、シフトを何に注意して決めればいいのかを最初に把握できておらず、何回も試行錯誤してようやく決まった。
- ・また、キャンプ中はKP会計が少々ずさんになってしまったので、お金の支出があった時はその時にすぐに会計簿に記入するかメモをとるなどしてこまめに実際の残金と会計上の残金を照らし合わせる作業が、次キャンプでの注意点である。
- ・KP同士の情報のシェアの不足も今回の反省で、何らかの情報が入った時、すぐにお互いに情報のシェアをすることが大事だとわかった。

以上のことを踏まえたうえで、KPになる人は、金銭面に几帳面になり、先のことを考えて、はやめに必要な情報をリーダーやBRGYのcaptainなどから仕入れて他メンバーに伝達することが重要だと認識する必要がある。

## 7. イベント

### ①Welcome party

・日時 3月24日18時～24時 @BRGY ホール

本隊到着日の夜、村人たちがウェルカムパーティーを開いてくれた。私たちはメンバー全員でソーラン節を披露した。村人たちもダンスなどで歓迎してくれた。また、料理やお酒も用意されており、プログラム終了後は24時までディスコで村人との交流をはかった。



### ②青空教室 (Open-Air class)

・日時 2月27日 10時～12時30分 @BRGY ホール、ダイケアセンター

今回のキャンプでは、新しい活動として青空教室を実施した。この活動では、村の子供たち（特に学校に行くことができていない子供）を対象に日本語の授業とお絵かき教室を行った。

#### [目的]

- ・学校に行くことができていない子供たちにも、学校の雰囲気や学ぶことの楽しさを知ってもらおうこと。(フィリピンでは経済的理由などで学校に行くことができていない子供が多い)。

#### ○1 限目：日本語教室

- 教えた言葉をビサヤ語と日本語（ひらがなとローマ字表記）でそれぞれ大きめの紙に書いたものを用いながら行った。
- 教えた言葉は簡単な挨拶や日常的な単語（例：おはよう、ありがとう等）
  - ・村人たちが非常に興味を持って参加してくれた。
  - ・滞在中、村人たちが、覚えた日本語を使って私たちと交流を図ろうとしていた。



## ○2 限目：お絵かき教室

●文房具集め隊★の活動で集めた鉛筆とクレヨンを用い、子供達各々の1番好きなものを書いてもらった。

●使用した鉛筆は参加者に1人1本ずつ持ち帰ってもらい、クレヨンはすべて回収した。

・ 普段あまり触れることのないクレヨンでのお絵かきで、子供たちはとても楽しそうにお絵かきを楽しんでた。

・子供たちに書いてもらった絵はなるべく持って帰るようにしてもらった。

・クレヨンの数に限りがあったが、特に取り合いになることもなく交代しながら使用していた。



## [反省]

・青空の下でやるという自分たちの固定観念にこだわらず、現地の気象条件を考えたうえで実施場所を計画すべきだった。

・フィリピンの祝日を把握しておらず、振替休日となり学校に通っている生徒が参加できなかった。

・ジュースを配る際、混雑をさけるために前もって次いでおけばよかった。

・ゲームを結局しなかった。

## 使用した物

・ノートの切れ端（文房具集め隊★にて収集）

・鉛筆（文房具集め隊★にて収集）

・クレヨン（文房具集め隊★にて収集）

・上質の紙（現地にて購入）・小さいパン200個＝200ペソ（現地にて購入）

・ジュース＝約20リットル（現地にて購入）



## ③Japanese Festival

・日時 3月6日13時～ @サントロサリオ小学校

### [目的]

・日本の伝統文化を伝えること

・人と交流を深めること

・協力することの大切さを伝えること

活動内容は創作活動として④折り紙、⑤習字、⑥凧揚げの3グループに分かれた後、最後にみんなで⑦三人四脚を行った。スナックとして⑧団子を手作りした。イベントには小学生を中心に100名以上の村人が集まった。また、マイクは学校の備品を使用した。当日の準備は朝10時に集合し、各自にイベント係が指示をし、準備に取りかかった。団子の作成は村長の家を使わせてもらった。イベントは盛り上がったが、FIメンバーでの連絡が行き届いていなかった点が全体反省として挙げられた。

#### ④折り紙

##### 使用した物

- ・標準サイズの折り紙：約300枚
- ・新聞紙：3部（見本用）
- ・折り方を図にて掲載した用紙：9部

※折り紙は非常に好評で多くの子供たちが興味を示し、後日学校側から授業で折り紙の授業をしたいので協力してほしいとの要望もあったほどであった。



##### [反省]

- ・予定の折り紙準備枚数を150枚としていたのだが、村人の人数を考慮すると足りず、もっと計画しておくべきだった。
- ・コピーした用紙は、種類を減らし、同じ折り方のものを数枚用意しておいたほうが回転はよかったのではないかと思う。
- ・子供ごとにスキル差があり、教えるペース配分が難しかった。

#### ⑤習字

##### 使用した物

- ・半紙：300枚
- ・筆：約15本
- ・墨：約3本
- ・スズリ：現地のココナッツの殻を乾燥させた物で代用
- ・新聞紙（机の墨による汚れ防止）
- ・事前に子供たちの名前を漢字で書く際に使用する予定の50音の漢字割当表



##### [反省]

- ・半紙が大幅に不足した。
- ・墨が机だけではなく、教室の黒板や床などにも付着するという予想外の事態に陥ったので、計画の段階から考慮しておくべきだった。
- ・習字のみ室内で実施したため、他の活動との連絡があまりとれていなかった。
- ・人の回転が悪かった。

## ◎凧揚げ

### 使用した物

- ・ビニール
- ・竹ヒゴ
- ・凧糸
- ・はさみ

必要なものはすべて国内で揃えた。作成方法などはネットで事前に調べておき、国内で試作をした上で現地へと出発した。

### [反省]

- ・当日は風が弱く、飛ばすことが困難だった。
- ・個人で遊んでしまう人が多く、数人で遊ぶことができなかった。
- ・活動範囲が広すぎて目が行き届かなかった。

## ①3人4脚

### 使用した物

- ・ヒモ:切断したブランケットを代用(現地のタオルは小さく、値段も高かった)
- ・ゴールテープ:切断したブランケットを結んで代用
- ・笛:(スタートの合図用)

※ルールの説明は実際に日本人がやってみせることで行った。

### [反省]

- ・非常に盛り上がり、現地人と交流が深まったと思う。
- ・開始時にしっかりとマイクでアナウンスをしなかったため、活動に気付かなかった人が出てしまった。
- ・レースの統率がうまく取れなかった。



## ◎団子

### 使用した物

- ・白玉粉 1,5kg (日本で購入)
- ・きな粉 (日本で購入)
- ・みたらしの材料 (醤油、砂糖等はすべて現地で購入)

※味は二種類できな粉とみたらしを作った。きな粉は人気だった反面、みたらしは口に合わなかったようだった。(おそらく現地の醤油は、日本の物と味が異なるため) 材料で使用した白玉粉ときな粉、片栗粉は日本で購入し、持っていった。他の調味料等は現地購入した。

### [反省]

- ・みたらしが現地人の口に合わなかったのは残念だったが準備に抜かりはなかった。



#### ④Beach Party

・日時 3月13日

[目的]村人たちと楽しみ、ワークの労をねぎらうため。

サントロサリオの村人と共に車で約1時間の所にあるビーチに行った。車は村長家から軽トラック1台、大型トラック1台、ホストファミリーから大型トラック1台と市からバン1台、残りは各自のバイクなどで向かった。

参加者は村の子供達、バヤニハン、ホストファミリーなど約150人も村人に、市長も加え盛大なものとなった。各々で泳いだり、バーベキューをしたり、お酒を飲んだりして楽しんだ。

※Counter Part(費用の内訳)・・・KP 参照



#### ⑤Farewell Party

・日時 3月14日20時～ @BRGY ホール

私たちのキャンプ最終日にお別れ会としてパーティーを村人が開いてくれた。村人からの出し物として、多くのダンス、歌、メッセージがあった。また、私たちのワークでの貢献を称えて賞状も頂いた。私たちはソーラン節を披露した。また、フラワーダンスというダンスを日本人キャンパーの女性陣が行った。これは、男性が女性をダンスを申し込み、その際にいくらかのお金を渡すというものである。このお金の合計金額で女性の順位を決める。今回あこが見事ミスフィリピンジャパンを獲得した。フラワーダンスの収益は残ったワークを行うスキルドワーカーの給料等に使用される。プログラム終了後は朝方まで音楽にのってみんなで踊り騒いだ。

※Counter Part(費用の内訳)

FIWC=3,000P(お酒、ジュースなどの飲み物代)

村人=4,000P(豚の丸焼き)

市=4,000P(豚の丸焼き)

村役員=4,000P(豚の丸焼き)



## イベント番外編♪

### ●スイカ割り

・日時 2月27日 午後 @BRGY ホール  
イベント系の思いつきでオルモックにてスイカを  
購入してきてスイカ割りを行った。

- ・元々計画していたイベントではなかったので、  
スイカ代 135 ペソはたかしの自腹。
- ・村人は参加せず、周りから声をかけるなど見物  
して楽しんでた。
- ・割った後のスイカは村人達にもふるまい、  
おいしくいただいた。



### [反省]

- ・村人も誘って一緒にやればもっと楽しかったのではないか。
- ・現地では比較的高価なスイカを日本人が粗末に扱っているように村人の目に映った  
可能性がある。

### ●Birthday Party

- ・ 2月26日・・・のりびー
- ・ 3月 9日・・・ぴよこ

みんなで寄せ書きや歌のプレゼントを贈った。また、村人達も早朝からケーキやパン  
シット（ビーフン）などフィリピンの誕生日のお祝いに一般的に食べられる料理を振  
る舞い、現地のやり方でキャンパーの誕生日を祝ってくれた。

### [反省]

- ・寄せ書きの準備がぎりぎりになってしまったので、国内にいるうちからイベント係  
を中心に企画しておくべきだった。



## 8. 会計



### [仕事内容]

金銭の管理、毎日の収支記帳、残金の確認

### [反省]

今回会計を2人で行い、本隊到着後は1人がワーク費、もう1人が生活費を管理するという体制をとった。そのため、会計全体の費用を管理するにあたり、毎日2人で帳簿を記帳するようにしていたが、2人が揃わずにしないことも多々あった。また、記帳の仕方にも少し問題があり2人を悩ませた。会計を行ってみて、いつ、何に、いくら使ったかをすぐに記録することが、ずれを最小限に抑える秘訣だと感じた。のわりに、記録を怠るといふ失態を犯し口論に発展することもしばしばであった（笑）

### [料金の目安]

#### ●宿泊費

- ・ シランガンホテル（セブ島） ※エアコン付き
  - シングルベッド 675 p/部屋、泊
  - ダブルベッド 875 p/部屋、泊

#### ●交通費

- ・ タクシー
  - (シランガン→Supercat 乗り場) 300 p/台
- ・ 船
  - Supercat（セブ→オルモック） 650p/人（Terminal Fee 含）
- ・ バス
  - (サントロサリオ→マタグオブ) 10 p/人
  - (オルモック→サントロサリオ) 30 p/人
  - (オルモック→リブンガオ) 25 p/人
  - (リブンガオ→サントロサリオ) 15 p/人
  - (リブンガオ→タクロバン) 80 p/人
- ・ ハバルハバル、トライシクル
  - (サントロサリオ→マタグオブ) 10 p/人
  - (サントロサリオ→サンセバスチャン) 15 p/人
- ・ 空港税
  - セブ空港 550 p/人

#### ●レート

2010.2.16~3.16 4,900~5,000/1万円

★収入について

生活費 先発  $4,950\text{p} \times 7 = 34,650\text{p}$

本隊  $4,900\text{p} \times 5 = 24,500\text{p}$

\* レートの違いにより 10000 円/人徴収したがペソ換算すると異なる額になった

ワーク費  $7,425\text{p} \times 12 = 89,100\text{p}$

24,750p (助成金 50,000 円分)

19,600p (助成金 40,000 円分追加)

2,000p (サントロサリオ小の先生方から)

\* 15,000p/人徴収

\* 先生方から頂いた 2,000p はマニユエルさんの給料にあてた

★支出について

ホームステイ

$1,500\text{p} \times 5$  世帯 = 7,500p (2 人組)

$1,000\text{p} \times 2$  世帯 = 2,000p (1 人)

Tシャツ代

服代  $95\text{p} \times 14$  着 = 1,330p

印刷代  $150\text{p} \times 14$  着 = 2,100p

イベント代

青空教室パン代  $1\text{p} \times 200$  個 = 200p

ジャパフェス 388p

誕生日費用 120p

サウンドシステム代 2,500p

\* イベント代に日本で調達したものは含まず

\* サウンドシステム代とは farewell party での音響費用

かなりしっかりしたものだったので高額であった

★出発前にかかった費用

医療バック代 11,063 円

イベント費 5,388 円

プリント代 500 円

収入			支出			
繰越金		2109.10	ワーク費	資材費	108,744	
徴収金	生活費	59,150		給料	ロクロク	8,525
	ワーク費	89,100			マニュアル	8,730
助成金		49,350		小計	125,999	
携帯代		434	交通費	ハバルハバル	824	
Sto.の先生からの寄付		2,000		トライシクル	472	
雑益		161		バス	2,105	
合計		202304.10		ジープニー	285	
				タクシー	2,400	
				バン	200	
				Supercat	18,200	
				ガソリン代	162	
				港入場料	20	
				小計	24,668	
			宿泊費	セブ	3,775	
			食費	KP費	9,900	
				ホームステイ費	9,500	
			小計	19,400		
			携帯代	ロード費	1,915	
				バッテリー代	250	
			小計	2,165		
			Tシャツ代	服代	1,330	
				印刷代	2,100	
			小計	3,430		
			生活雑費	off(虫除け)	194.50	
				トイレトペーパー	78	
				洗剤	222	
				ゴザ	800	
				たらい	140	
				ロープ	50	
				軍手	915	
			小計	2,399.50		
			イベント費	青空教室	200	
				Japanese festival	388	
				誕生日費用	120	
				サウンドシステム代	2,500	
			小計	3,208		
			雑費		178	
			合計		181,447.50	

(単位：ペソ)

[旅費総額]

航空券代 約 64,000 円

ワーク費 15,000 円

生活費 10,000 円

キャンプ参加費 500 円

+) 保険代 約 8,000 円

計 約 97,500 円

※先発のみビザ代 約 6,000 円

●個人費

・お小遣い 10,000 円で足りるはず

※補足→村ではほとんど使わない。

お土産代、交通費が大半。

[ロクロクさんへのカンパ費]

・メンバーから 500 円×12=6,000 円

・信くんとのりさん 10,000 円

(過去キャンパー)

・なみさん 1,000 円

(前々回キャンプリダー)

## 9. 保健

[個人の保健報告]

### ●ゆき

症状：腹痛

期間：2/17～2/21

状況：2/19はカピタンの家で1日休養を取り、活動には参加しなかった。他の日は無理をせず、体調管理に気を付けた。

処置：正露丸など日本の薬を飲んだが、変化はほぼなかった。安静にした結果、徐々に回復した。

### ●びよこ

症状：風邪(熱、咳、寒気、吐き気)、疲労感、食欲不全

期間：2/26～3/4

状況：フィリピンでの極度な寒暖の差と疲労が重なり、初め現れただるさが徐々に悪化して、風邪のような症状が出た。微熱程度の熱が数日続いた。

処置：なるべくハードワークは避け、無理をしないように心がけた。しかし、3/2に立ちくらみがし、そのまま病院へ運ばれる。病院では、5パックの点滴とインフルエンザの検査を受けて、一日で退院した。その後は、村に戻って村のヘルスセンターで数日間療養して回復した。

### ●たかし

症状：鼻血

期間：2/16～3/16

状況：期間中何度か鼻血が出るがあった。

処置：鼻をつまんで水で冷やすうちに治まった。

### ●たくみ、かず

症状：足に炎症

期間：3/2～3/9

状況：虫さされがひどく、よく搔いてしまった。その後、何か所か膿ができ、左足の足首が腫れてきた。足は熱を持っており、その足の熱で熱がでた。

処置：抗生物質と痛み止めを一週間継続して服用したところ、症状は落ち着いた。日本に帰国後、すぐ治った。

●たくみ

症状：体調不良

期間：3/10～帰国まで

状況：足の熱から熱がでた。休みが少なく体力的に弱っていたので、疲れによって帰国後一週間くらいまで、微熱、吐き気、頭痛、咳、鼻水などの症状が続いた。

処置：日本で病院に行ったが特に異常は見られず、休息をとった。現地では10日と11日のワーク中は、ホームステイ先で休ませてもらった。

●やす

症状：食欲不振、気分不良、胃もたれ、消化不良

期間：約3日間(3月)

状況：トウバの飲みすぎによって体調不良を起こした。

処置：ホームステイ先のタタイの紹介による祈祷師が持ってきた吐き薬(別名：青い悪魔)を飲まされ病状悪化。その後しばらくアルコールを自粛、また休息をとったことによって自然に回復した。

[反省]

思いのほか絆創膏の消費が多くサイズの大きいものが途中でなくなった。医療バッグを常に自分が持っていたため、ホームステイ中ほかのメンバーは医療品をいちいち保険係のもとに取りに来なければならなかった。Health care centerにおいておけば各自医療品を必要に応じて調達できただろう。

## 10. ホームステイ

### 【期間】

3月4日～3月13日

### 【選出方法】

村長が候補としてあげた20軒の家を訪ね、家族構成、食事や仕事、就寝時間等を調べた。さらにキャンパーの安全や言葉の問題を考え、7軒が最終候補になった。その7軒の中から自分が滞在したい家の希望を3軒まで書いてもらい、ホームステイ係が振り分けた。

2月26日にホームステイミーティングを開き、リーダーとホームステイ係が村長と7軒のホストファミリーへNorWeLeDePAIの作成した規約書とFIからの要望について説明を行った。

以下に示すのがNorWeLeDePAIがホームステイ先に要求した規約書の内容である。

- |                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. キャンパーに対して家族と同じ扱いをすること。特別な待遇や準備は必要ない。                                                     |
| 2. キャンパーのプライバシーを守ること。特にマリーゴ(水浴び)をする時と就寝時。                                                   |
| 3. ホストファミリーと一緒にいる間は、キャンパーのセキュリティーに気を付けること。<br>キャンパーは自分と持ち物を守るようにするが、ホームステイ先にも出来る限り気をつけて欲しい。 |

最後にこれにホストファミリーとその家に滞在するキャンパーが署名し、後日NorWeLeDePAIに提出した。

### 【メンバー振り分け】

★:男 ☆:女

★しーやん ☆のりぴー	★たくみ ☆びよこ	★みっちー ☆みゆ	★やす ☆ゆき	★かず ☆あこ	★たかし	★おに
----------------	--------------	--------------	------------	------------	------	-----

### 【ホームステイ中のスケジュール】

～7:50 起床、水浴び、朝食

8:00 ワークミーティング後、ワーク開始

11:30 昼食

13:00 ワーク再開

17:00 ワーク終了

17:00～ ステイ先で夕食、フリータイム

※ホームステイ中は各自に1,500ペソずつ渡し(1人でステイする者へは1,000ペソ)、それで食材や生活用品等を買ひ、ホストファミリーに渡す仕組みにしていた。



## [反省]

### ○良かった点

- ・ 村長、ホストファミリーとミーティングを開き、規約や要望について説明することができた。
- ・ どのステイ先も快適に過ごせた。
- ・ 男女ペアでも問題なかった。

### ●悪かった点

- ・ 1,500 ペソは高すぎたのではないか。期間中に使い切れず余る家が多かった。
- ・ 門限を守らずステイ先の家族に心配をかけることがあった。

## [総括]

10日間という短い期間ではあったがフィリピンの一般家庭の生活を経験する中で、ホストファミリーと十分に親交を深めることが出来た。歌い踊り、酒を飲み語り、フィリピンの文化風習に直に触れられたことは、キャンパーにとって忘れられない有意義な体験になっただろう。大きな問題もなくホームステイを終えることができて大変良かった。



## 11. 文房具集め隊★

### ●「文房具集め隊★」とは

フィリピンキャンプ下見調査後に、下見メンバーが発案した村の子どもたちに文房具を寄付する企画である。発案の背景としてサントロサリオ村に子供が多いこと、今回のワークが小学校でのワークに決まったこと、一部の子どもが学用品を十分に持っていない状況を知ったことなどがある。活動は、まずFI内や外部から「文房具集め隊★」企画メンバーを募り、そのメンバーを地域別に2～3名のバディに分けて活動した。文房具の収集方法は主に「学校寄付」と「個人寄付」の二種類がある。「学校寄付」では、福岡県内の小中学校を中心に協力を要請し、生徒から新品及び中古の文房具を集めた。「個人寄付」では、身近な人に声掛けをし、友人や家族から個人的に文房具を集めた。その後、文房具を集め隊★メンバーが物品の集計・仕分けを行い、キャンプ中に村の子供たちに寄付した。また、帰国後に各協力校や個人へ活動報告を行った。なお、企画の情報は、活動ブログ(<http://fiwcqbnbg.exblog.jp/>)で随時更新している。

#### [目的]

現地の子供たちの学習環境を向上し、学習意欲を促進すること。日本国内の小中高校生や家庭に国際協力の機会を提供することで、フィリピンの子供たちの現状、さらに小さな活動でも誰かの幸せになるということを考える機会を設けること。

#### [活動期間]

・ 第一回 MTG	2009年11月15日
・ 寄付募集開始	2009年12月1日
・ 学校寄付募集	2009年12月1日～2010年1月15日
・ 寄付募集終了	2009年1月17日
・ 学校寄付回収	2010年1月18日～23日
・ 文房具集計・仕分け	2010年1月22日～28日
・ フィリピンキャンプ(現地活動)	2010年2月16日～3月16日
・ 活動報告締め切り	2010年3月31日
・ 第七回最終 MTG	2010年4月11日

#### [国内活動]

##### ①学校寄付

各バディでアプローチした福岡県内の小中学校15校のうち8校から支援を頂いた。さらにブログをご覧になった大分県立雄城台高校も加わり9校からの協力を得た。その結果、予想をはるかに超える文房具が集まったが、キャンパーが現地へ運べる文房具の量は限られていたので、文房具の仕分け基準を設けて基準を満たす物品の一部を現地へ届けた。

・活動協力校（9校）

壱岐中学校、雄城台高校、加布里小学校、古賀東小学校、笹丘小学校、長丘中学校  
広川中学校、姪浜中学校、友泉中学校（五十音順）

**②個人寄付**

活動ブログをご覧になって寄付を下さる方もおり、結果的に50名の方から個人寄付を頂いた。

**③募集結果**

学校寄付-----19,507点（9校）

個人寄付-----2,430点（50名）

**総計 21,937点**

※詳細は「『文房具集め隊★』文房具集計結果報告書」を参照(別資料)。

[現地活動]

現地では、「青空教室」と贈呈式、**Farewell Party**で、子供へ文房具を手渡した。

**①青空教室**(2010年2月27日)

- ・日本語教室…切り離れたノートを1人1枚ずつと、鉛筆を1人1本ずつ子供たちに配布し、教えた後に個人へ寄付した。
- ・お絵かき教室…寄付して頂いたクレヨンを子供たちに貸し出した。

**②贈呈式**(2010年3月2日)

サントロサリオ小学校にて行われた。参加者は、全校生徒315名(欠席者18名)、全先生、NorWeLeDePAIのメンバー3名とFIWCキャンパーである。欠席者を除く297名にキャンパーが直接、新品の鉛筆891本(1人3本)を寄付した。欠席者18名には後日、先生が渡した。また、FIWCからのメッセージ付き(★下記参照)のクレヨンの箱(41箱)と255個の消しゴムを全生徒が使える学校備品として寄付した。これらは校長室に保管され、必要に応じて生徒が先生を通して、自由に使えるようになった。この時、現地の子どもたちから、キャンパーや日本の小中高校生へ向けたいお礼のメッセージを受け取った。これらの一部は報告書・写真と共に日本の協力校へ届けた。





### ③Farewell Party (2010年3月14日)

参加していたおよそ 200 名の小学生以下の子供に、サントロサリオ小学校の先生たちの協力の下、鉛筆 2 本ずつを寄付した。

#### ※ [メッセージ]

GAM などあらゆる場で、活動の目的や日本の小学生の思いなどを、現地の子供たちや保護者に確実に伝わるよう努めた。これは、寄付品が粗末に扱われたり、喧嘩の原因になるなどの負の影響を防ぎ、大切に扱ってもらうためである。クレヨンの箱にはキャンペーンと NorWeLeDePAI のメンバーで一つ一つに現地語でメッセージを書いた。

※①から③で渡しきれなかった鉛筆 (80 本程度) と消しゴム (30 個程度) は、村長に経済的な理由で学校に通うことの出来ない子供たちへ寄付してもらうようお願いをした。

※移動中に一部破損のあったクレヨン 3 箱は Day Care Center (5 歳から小学校入学までの子供が通う施設) へ寄付した。

#### [反省]

国内活動では、日本の小中高生が FI の活動やフィリピンについて知り、考える機会を提供できたことや「文房具集め隊★」メンバーに非常にいい経験になった反面、活動開始の遅さやメンバーの余裕のなさ等が反省として挙げた。また現地では、村中を挙げて喜んでもらえたことは良かったが、寄付の平等さや現地への負の影響(経済効果など)に不安が残った。これらの反省点を踏まえて、文房具寄付のメリット・デメリットを考えた。その結果、今後の活動は“無期限活動停止”とした。

寄付活動についてより深く学び、活動を継続出来るのか、寄付活動は行うべきなのかなどを話し合う場として、「TEAM★文房具」を立ち上げた。月 2 回 MTG を行い、「文房具集め隊★」の今後の活動について継続して考えていく予定である。

## 12. 生活状況

[衣] フィリピンは毎日暑く最高気温が 30℃を超えるような日がほとんどであり、ワーク中は泥やセメントで汚れることが多いので、Tシャツに半ズボンなどかなりラフな格好で生活していた。ただし朝と夜に冷え込んだりする場合もあるので、長袖と長ズボンが最低 1 着ずつ必要になっていた。また、今回はワーク内容がフェンスの建設であったため、セメントで手足が汚れる場面が多く、すぐに水洗いのできる、サンダルやクロックスがかなり役立っていた。

クロックスのほかTシャツやズボンなど大抵の衣服は現地でも調達でき、しかも日本と比べ格安で購入できるので、途中で服を買い足すメンバーも多かった。

[食] フィリピンの料理は、豚肉や鶏肉や魚を使ったものが中心で醤油や塩で味付けしたものが多く、わりと日本人の味覚に合うものであった。主食が米でおかずが 1~3 品という献立が多かった。野菜も十分にとることができ、マンゴーやバナナ、パイナップルなど亜熱帯のフルーツは格別だった。コーヒーやオレンジジュース、コーラも飲むことができ、パンもおいしく食べられた。



しかし、体調を崩したり、便秘になるメンバーもいたのでサプリメントや、便秘薬などを持参していけば防げたのではないかと思う。

また、生水を避け必ずミネラルウォーターを飲むようにしていた。

[住] 共同生活中は、村の公民館のようなところに寝泊まりさせてもらい、最後 10 日間はそれぞれのホームステイ先の家に泊まらせてもらった。ベッドに寝るか、ゴザをしいて床に寝るようにしていた。1つのベッドに2人で寝ることもあったが、日中にワークで疲れた体をしっかり休めることができた。虫に刺されないよう、蚊帳をはって寝ることもできた。

[風呂] 日本のような湯船につかるお風呂はフィリピンにはなく、ポリバケツやタンクに貯めた水を手桶ですくって水浴びする「マリーゴ」というスタイルが主であった。水浴びの場所が屋外にあることもあり、その場合は服を着たまま水浴びした。

ただ、夜に水浴びすると冷えて風邪をひきやすいため、朝・昼に行った。ワーク後は身体が熱をもっているため、1~2時間おいて水浴びするようにした。石鹸やシャンプーは村の近くでも、安く購入できた。

日差しが強く、髪が傷みやすいので、オイルを持参するか、オルモックで買っていくことをお勧めする。

[洗濯] 村は洗濯機がない家庭がほとんどだったが、村長さんの家には洗濯機があったので共同生活中に使わせてもらうこともあった。

ホームステイ先は洗濯機がなかったので、タライに水を貯め、粉末洗剤で手洗いをして汚れを落とした。

日本人は手洗いに慣れていないのでなかなか汚れが落ちず、現地のお母さんに手伝ってもらいながら洗濯していた。干すときは家の周りのロープや柵に干していた。



[トイレ] 便座が無いことが多く、低くて小さい洋式便器のような形のものが主流だった。用を足したあとはポリバケツに貯めた水を手桶ですくって流す様式で、日本と違って紙は流せないため、ゴミ袋を持って行き、ゴミとして捨てていた。うまく流れきらないこともしばしばあったので大変だった。

[買い物] 村から「ハバル」と呼ばれる中型バイクで10分くらいのところにマタグオブ市の市場があり、食料品・衣料品・薬・文房具など生活に必要なものはほとんどそこで調達することができた。また、村の中には「サリサリ」という小さな個人商店があり、お菓子や石鹸、お酒などのちょっとした買い物をすることもできた。



村からバスで1時間ほどのところにあるオルモックという大きな港町では、村の近くではできない買い物やペソへの換金などもできた。

[交通] 近距離の場合には「ハバル」や、「トライシクル」と呼ばれる荷台付き中型バイクに3～5人程度乗って移動した。オルモックなど遠くに行く場合は村の近くから出ているバスを使った。今回のワーク地であったサントロサリオ村は国道沿いに面していたため、交通の便がよかった。

その他、空港～セブシティ間はタクシーに乗り、セブ島～レイテ島間はフェリーに乗って行き来した。タクシーは高額な運賃を請求してくるドライバーもいるようなので、値段交渉をしっかりした上で乗らないといけない。また、降りるときはトランクや車内に忘れものが無いか確認し、忘れ物などの場合連絡を取るために、出来るだけタクシーのナンバーを控えておく。



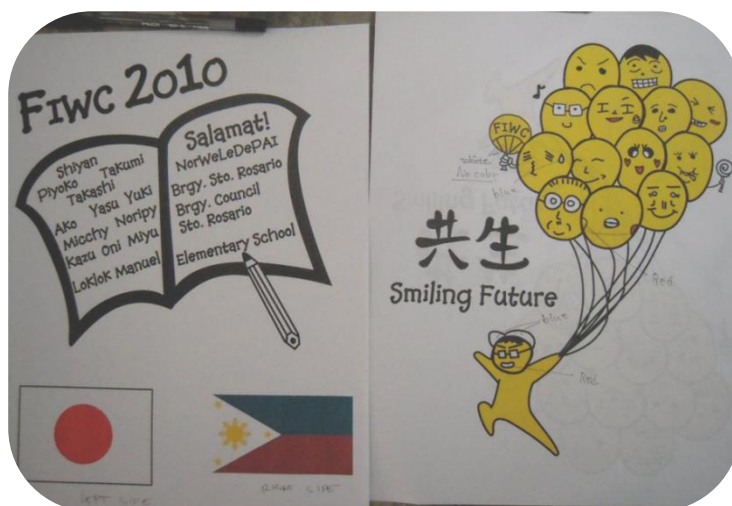
### 13. Tシャツ

今年も例年同様にキャンプ T シャツを作った。デザイン自体は国内で作っていき、無地の T シャツをオルモックにて購入して、オルモックの T シャツ印刷屋で印刷してもらった。(1人あたり T シャツ約100ペソ、印刷代約150ペソ、詳しくは会計参照) デザインを印刷屋に提出した後に、完成までおよそ1週間かかった。

※印刷屋が期限までに仕事をしていないことがたびたびあるので、期限については念入りに言うておく必要がある。



デザイン★  
表：たかし☆  
裏：あこ☆



ロクロクさん、  
マニユエルさん、  
FI キャンパーで  
おそろい (\*^^)v

## 14. 他己紹介

### ★しーやん★



しーやん・・・ディスコんとき一緒に sweet dance 踊ってくれる女の子探しに必死だったね(笑)ってな感じ、彼女募集中のしーやんは MTG のときリーダーって立場じゃなくてうちらメンバーと同じ位置に立って話聞いてくれたね。そんな優しいリーダーだからメンバーから攻撃を受けることも多々。でも、それに気づかないしーやん・・・流石です！うちらメンバーが最高のキャンプを送れたのもしーやんのおかげだよ♪

このキャンプを一から作ってくれたリーダーに感謝、

Daghan Salammat !!!

From あこ

### ☆ぴよこ☆



責任感の強さはキャンパーNo1！！

そんな FI の歌姫が僕は大好きです♡

体調崩してもワークのことを第一に考えみんなを引っ張ってくれたぴよこ。あなたのお陰できついワークも乗り切れました！

本当にありがとう(\*´`\*)

3月9日のぴよこは特に綺麗で、男共はみんなあなたの虜になっていました！笑 いつもしっかりしているけど、たまに抜けてるぴよこがツボでいつも笑わせてもらいました(いい意味で)笑

日本での路上ライブ楽しみにしています。笑 ワークリーダーお疲れ様！

From おに

### ★たくみ★



このキャンプでのたくみは本当に頼もしかったです！！たくみがいなければ今回のワークは成り立っていなかったし、キャンプ全体を見てもたくみの力は絶大でした！！

個人的にはたくみの時折見せるおちゃめなところやだらしなところが好きでした。(笑) 特に「もういいんじゃないね～めんどくさいし。」というたくみの口癖がとても印象的でおもしろかったです・・・(≧▽≦)

ワークリーダー大変だったろうけど、たくみは大変よくやりました！！

ワークリーダーおつかれさまです！！！！

From かず



### ★みっちー★



とにかく、お酒と日焼けに弱いみっちー(#^.^#) 朝は、しっかりと日焼け止めを塗り、ワークは必ず長ズボンで参加！！女子よりも肌を保護していましたね(笑) 夜は、村人とお酒を飲んで、「パラホボック・・・」な状態になり、床に寝ていることもありました。しかし、ホームステイ先のシスターを可愛がる優しい一面もあり、また、お金の計算は誰よりも強く、会計学を駆使して、会計の仕事を頑張ってくれましたッ★

ありがとうね、みっちー (●^o^●)

From みゆ

### ☆あこ☆



思えば私が FI に関わるようになったのもあこの不思議な縁のおかげです！

フィリピンでのあこといえば…とにかくよく寝てました！あこの寝姿を見て何度笑ったことか…。だけど人は恋をすると変わるものですね(^\_^) (笑) さすがミスフィリピンジャパン！！フラワーダンスは完敗でした…。あの日のあこはいつにも増して素敵でした！！老若男女問わず村人たちはあこの魅力にめろめろ (\*^\_^\*)

そんなあこだけど、楽しみつつ会計の仕事も夜遅くまでみっちーと頑張っていました。あんな細かい仕事、私にはとても務まらなかったと思います…

また、ミーティングのとき、切り替えきれずふざけていた私はあこの鋭い視線でよくはつとさせられました(。・。・；

きっと次行くときも一緒だろおからどおぞよろしくお願ひします♪

From ゆき

### ☆のりぴー☆



Ate Noripy! そう、ノリピー姉さんはなんでも出来るできる女なのです。特に記憶に残っているのは、ワーク中「スコップの女王」という二つ名をほしいがままにするほどの働きっぷりかな。日常生活でも自らあらゆる仕事をこなしていたノリピーは本当に尊敬に値するね。

Daghan salamat!

そんな真面目なノリピーがあるとき花男について熱く語り、テンションが上がった状態で花沢類のモノマネ?をしたときはヤバかったね。今でも思い出しただけで笑えます。

From みっちー

☆ゆき☆



今メンバー生粋のマロマロ。ゆきに惚れたフィリピーノは数知れず。そんなゆきだけど、同じイベント係としての仕事では、的確な指示に加えイベント自体を盛り上げてくれてすごく頼りになる存在でした。ゆきのおかげでめんどろだったイベントの準備も楽しくやれたよ！！一緒にキャンプ行けて本当に楽しかった。

Daghan Salamat！！またサントロに遊び行こう！！

From たかし

★おに★



今から鬼塚博之君を紹介します。ワークでは10トンもあるセメントを快活に笑いながら軽々と運んでくれる頼りになるナイスガイです。また普段は皆に笑いをもたらす福の神です。しかしそんな鬼塚君も一人では寂しくなって死んでしまうというウサギのような可愛らしい一面を持っています。さらに、他人をすべらそうというなかなかダークな顔も持ち合わせており、そんなギャップにフィリピーノは狂喜乱舞でした。

From やす

☆みゆ☆



みゆにはいっぱい笑顔をもらいました。穏やかな雰囲気でもいつも周りを和ませてくれたね。でも周りに流されない自分を持っていて、そういうとこいいなって思ってたよ★そしてみゆは年上キラーやった!!(笑)多くのクヤ達がみゆに魅了されて、ワーク中もみゆはよくバヤニハンに囲まれてたね♪そんなみゆの、一番テンション高くて楽しそうな時間は、恋バナしてる時だったと思う！一途に恋をしているみゆは、普段以上にキラキラしていてかわいかったよ♡

また Girls Talk しよーね(^^)♪

From のりぴー

★かず★



キャンパーの誰より、子供たちから愛されるかず^^  
かずファンは数えきれない！そんなかずは、ワークもイベントも思いっきり楽しんでいた!!自分からどんどん仕事探して、Skilled Workerと混じって、そしてワークを盛り上げていた:D イベントでも周りを巻き込んで盛り上げてく。そんなかずをめっちゃすごいなあと思ってました☆

From たくみ

★たかし★



たかしといえばあの言葉しかありませんよね？それは、『バヨット(おかま)』。彼は、おかまキャラで村中を盛り上げてくれました。そんなたかしは、どこか抜けているところがあり、日本人とも現地人ともたまに話がかみ合わないことがありました。私的に、そこがかなり萌えポイントでした。でも、たかしは実はしっかりしています。ミーティングでは皆の気付かない点を指摘してくるし、自分の仕事に対しては本当に一生懸命です。

だから、どんなにおかまでも、どんなにかみ合わなくても憎めない男でした。いつも頼りにしています!!!!これからも弟のレブロンを大事にしてねん☺Nahigugma mi kanimo!

From びよこ

★やす★



フィリピンにサッカーを伝えた人物であり、日本代表ムードメーカー。ワーク中のバケツリレーも、やすがいるとダンスステージに早変わり★十八番はミュシガレットだよなっ!!そしてワークが終わってから、響き渡るやすのホマナのかけ声。バーナードと息ピッタリで、めっちゃ面白かった!あと、トゥバを浴びるように飲んでたね。本当に浴びて、いつもTシャツ真っ赤になってたし(笑)みんなを盛り上げ、気になることはきちんとメモを取り、帰宅後はオジーと二人でピア

ノ…切り替えうますぎやった!いっぱい話できて楽しかった!また語ろうな~♪

Daghan Salamat!!

From シーやん

★ゆうたろうさん★



おれはフィリピンでめっちゃモテると日本で言っていたゆうたろうさんですがホントにモテモテでしたね(笑)ゆうたろうさんはフィピンではとても輝いていましたよ!!!

ゆうたろうさんがいなければおにもおれも今回のキャンプには参加していなかっただろうし、こんな貴重な体験はできませんでした。本当に **Daghan Salamat** です!!

From かず

※ゆうたろうさんは一昨年のカンパーで、今回は一昨年のカンパ地であるマンサハオンに再訪する目的でフィリピンを訪れました。1週間ほどキャンプに合流してワークにも参加していただきました。

## 15. 感想

### ★しーやん

「ボランティアってなんだろう？」去年、初キャンプで考えたこと。あれから一年が過ぎた。今もはっきりとした答えは言えない。だけど、ワークキャンプの在り方、国際協力について夢中になったこの一年、多くを学び、前進したと思う。

忘れられない経験の一つが、チェリーを歌ったこと。始め、友達が発案して自分が演奏してキャンパーが歌い、それを聞いた村人もギターで弾いたり口ずさんだり。それから村人と道端で一緒に歌ったり、完成したフェンスの壁に歌詞を書いたり。そして farewell では村長の家の人たちがチェリーをBGMに踊ってくれた。日本人とフィリピン人が混ざり合って、踊り歌い、全員が一つになったとき…嬉しくて楽しくて、言葉にできなかった。

現地の若者とワーク中に話したとき、印象的だったやりとりがある。キャンパーに日本語を聞きまくって、複雑な日本語を言ってくる若者がいて、「なんでそんなに日本語しゃべるんだ？」と聞くと、「(日本人である) おまえがビサヤ語をたくさんしゃべるから。だから、(フィリピン人である) おれは日本語をしゃべるんだ。」と言った。もっとコミュニケーションがとりたい！という自分と、そこには同じ考えを持って行動する村人がいた。自分のビサヤ語を認めてくれたこと以上に、なにか心が通じた気がして、本当に嬉しかった。

初めて会ったときは歓迎してくれ、時間があれば話に来て、別れの日が近づくと村にいつまでもいてほしいと言い、別れ際には忘れないよう思い出の品がほしいという。これだけ出会いを大切にしている人がいるのか、会ったばかりの他人に優しくできるのかと感じた。一度目、二度目、三度目…何度会っても、笑って、泣いてが止まらない。一昨年はパスポートすらもってなかった自分からは考えられもしない思い出。学生だけでつくり、現地の生活に深く入り込めるF Iの特徴を生かした、真に相互交流の深いキャンプだった。



自分にとってF IWCでのキャンプは「人を知る旅」だった。世界中に住む、自分とは異なる人に出会い、話し、知る。文化が違えば違うほど、それは刺激的で学ぶことが多い。この旅は生きている限り、ずっと続く。フィリピンでの旅は自分の軸となってくれた。これからの旅路での出会い一つ一つを一期一会と思い、地に足をつけながら歩み続けていきたい。

支えてくれた人に感謝の言葉を…人は、協力して、対立して、刺激しあって伸びていく。その全てを共有したキャンパーのみんな、頼りないリーダーで迷惑かけたけど、一緒に行けて幸せだった。それから、背中を押してくれた友達や家族、多くを教えてくれたフィリピン人みんなにありがとうって言いたい。精一杯の気持ちで…Daghan salamat.

## ☆びよこ

フィリピンと関わってきた一年間。私にとっては大きすぎた一年間。その中で学んだのは、「人」でした。フィリピンに行くとなぜか人のすべてがあふれだす気がします。そこでは、日本人もフィリピン人もみな正直です。日本で、あふれる物や忙しきでごまかしきれていた部分も隠しきれなくなってしまう。それは、自分の気持ちに正直なフィリピン人に勇気づけられているのかもしれない。「人」の温かさも、喜びも、悲しみも、愚かさも、つらさも、怒りも、弱さも、強さも全身で感じた一年間。ほんとうの「人」を見せられて、ほんとうの「自分」を知らされました。そんな「人」と「自分」が、かなり低い確率で出会って、「人」のために、そして「自分」のためにワークをして、繋がっていった奇跡を見た一年間。全力で臨んだからこそ、全力のものが返ってきた一年間。私はこの全力で受け取った一年間を一生忘れません。そして、私たちがやったことに一生責任を持っていこうと思います。

## ★たくみ

今回は去年の夏の下見キャンプに続いて2回目のキャンプだった。初めてのワークキャンプで初めてのワークリーダー。分からないことだらけでのスタートだった。自分自身の全力でキャンプに向かったが、結果的に自分の能力不足や余裕が持てなかったことで他のメンバーに沢山の迷惑をかけてしまったし、ワークリーダーとしても多く反省の残るワークとなった。

だからこそ、自分の足りない面を見られたことで多くを学べたと思う。何より、他の11人のメンバーと信頼を築けたことや大切なことを教えて貰えたのは本当に良かった。同時にぬげさんやゆうたろうさんといったOBの方と話す機会を得られたのも大きかった。今まで気付けていないことをはっと気付かされ、自分やキャンプに足りないことや考える機会を得られた。そして、村人との繋がりが深まったことはとても嬉しかった。前回のキャンプで会ったサンセバやサントロサリオの人たち、そしてロクロクさんと再び話せたことでより信頼を築けたし、新しい友達やマニユエルさん、ホストファミリーに出会えたことは心からフィリピンに行つて良かったと思える理由である^^



11人のメンバー、日本や現地で応援してくれたFIのOB・OGさん、そして支えてくれた友達や家族。本当にありがとうございました。

## ★みっちー

「フィリピンでボランティアかおもしろそうだな」たまたま学祭でもらったビラから全ては始まった。現地についてはカルチャーショックの連続であった。でたらめな交通ルール、さまざまな謎のお酒、民衆で熱気につつまれた闘鶏場、その中でもとりわけ現地の人々の親切さには驚いた。道を歩いているだけでご飯や酒の席に誘ってくれたり日本では考えられない体験もした。

しかしその一方で、考えさせられることもあった。それは、このような体験が出来るのは自分が日本人であるからではないかというものだ。フィリピンの田舎に外国人、まして



や金持ちのイメージが強い日本人が来たからお客様として特別扱いされているのではないか、もし自分が日本人でなくとも同様の体験ができたろうかと思うことが度々あった。またそう思うことによって、もっとフィリピン人のことを知りたいがため彼らの目線で日常のことをとらえようと努めることも、自分たちの行っているボランティアについて熟考することも出来た。

今回のキャンプで分かったことはフィリピンという異国の地、そこに確かに人がいた。少し言語や文化が違うだけで根本的には自分と何一つ変わらない人がいた。国は違えども今を共に生きる人がいた。そこに確かな絆を見出すことができた。今回のワークキャンプで得たものは間違いなく一生の財産になるものであろう。本当にこのキャンプに参加出来よかったと心から思う。そして最後に最高のキャンプを共に創ったキャンパーの皆、FIメンバー、サントロサリオの皆、好き勝手している自分を支えてくれた家族へ **Daghan Salamat !!**

## ☆あこ

本キャンは絶対行く！そう思い始めて早10ヶ月、2月16日とうとう念願のキャンプに出発した。初めてのフィリピン・・・キャンプ経験者のキャンパーがフィリピン人相手に強気で立ち向かっていく姿に圧倒されてしまった。正直、積極的すぎるフィリピン人が怖いと思ってしまった。村につくと、アレ!?沖縄に似てる(笑)。それは置いて、村での一日一日は着実に過ぎていった。近所迷惑なほどディスコで踊り騒ぎ、爆音でカラオケを歌い、酒を飲みかわし、ジョークの混じり合うワーク地での楽しい作業、充実した日々がそこにあった。フィリピンで過ごした1ヶ月はどんなにきれいな宝石にも見劣りしないほど美しい思い出となって私の心の中で輝いている。

私はキャンプ前、バイト先に1ヶ月休みもらいますと言ったとき、店長に言われたことがある。「お前は見ず知らずの人のためにバイトを休んで、お金をかけてまで何故わざわざ働きに行くんだ？俺は自分の身近な人を守るので必死なんだ。もっと自分の身近な人から救おうとは思わないか？」私はこのとき店長に対して返す言葉がなかった。あとで、し

っかりした参加意義を持っていなかった自分を恥じた。しかし、キャンプを終えた今だからこそ言えることがある。私はボランティアをしに行ったのではない。この1カ月という時間、このキャンプにかかった10万という費用、それは自分への投資なんだ!と。周りから見たら少し、ほんの少しかもしれない。でも、このキャンプ1カ月で成長した、と強く感じる。そう感じられたことが、このキャンプに参加して1番の収穫だと私は思う。

フィリピンは水源から溢れ出る水のように優しさに満ちていた。今回のキャンプは自分の成長ために参加したものだとは先に述べた。しかし、この1カ月フィリピン人の優しさに嫌ってほど触れた私は、彼らのために何か出来ないかと考えるようになった。私は必ずフィリピンに帰る。そして、彼らのために私ができることを優しさをもって示したい。

最後に、苦楽をともにしたメンバー、日本で支えてくれた FI メンバー、そして FI と引き合わせてくれた先輩、素敵なキャンプをありがとう!!!

## ☆のりぴー

フィリピンでの3週間は、今までもこれからも、私の人生の中でこんなに濃い3週間はないだろうと思える3週間だった。1日1日が長くて、でも終わってみるとあっという間だった。

ずっと国際協力に興味があった。そんな中、たまたま NGO のスタディーツアー合同説明会で知った FI の活動に興味を持ち、参加を決めた。しかし行く前は、楽しみよりも不安の方が大きかった。でもそんな不安も、フィリピンに行ったらすぐに薄れていった。村の人たちは本当に本当にいつも暖かかった。私は英語もビサヤ語もそんなにうまく話すことがで



きたわけではない。でも大人も子供も、みんな毎日笑顔で言葉を交わしてくれた。会って間もない人たちに、あんなに Happy Birth Day!と言われた誕生日はなかった。ワークの疲れも、子どもたちの可愛い笑顔が癒してくれた。ホームステイ先のナナイもタイも、自分の子どものように可愛がってくれた。人の温かみをこんなにひしひしと感じることは今までなかったと思う。自分の人生の中で、行ける場所も、出会える人も限られている。偶然行ったフィリ

ピンという文化も言語も違う国で、偶然出会った人々。みんなに出会えてよかったと、いつかまた会いたいと、心から思える。

そして一番の目的だったワーク。毎日暑い中で、きつと感じることもあったが、今まで経験したことのないワークに楽しさも覚えた。そして自分が何のためにここに来たかを考えると、この機会を無駄にしたいはなかった。作業が進むにつれてだんだんフェンスが出来上がるのを見ると嬉しかった。今、自分がどれだけワークに貢献できたのか考えると、ほんの少しだったかもしれない。それでも自分なりに頑張れたと思うし、現地の人たちに認められたことはすごく嬉しかった。

キャンプを終えて、将来的にも、どんな形でもいいから、国際協力に関することに携わっていったらいいな、と思う気持ちが強くなった。絶対に忘れることのない 3 週間を支えてくれた、フィリピンで出会った人々、FI メンバーのみんな、応援してくれた家族や先生友達、みんなに感謝!!Daghan Salamat(^^)★☆

## ☆ゆき

日本に帰ってきて、蛇口をひねればいつでも水が出て、もちろんお湯も出る。ガスコンロがあって、全自動の洗濯機があって… 何不自由ない生活が送れる。もう水に困ることもなく、虫に悩まされることもない。だけど、なぜか少し孤独。フィリピンでは絶対に感じることもなかった感情だ。日本では夜になっても外は明るい。目をこらさなくても、懐中電灯なしでも普通に歩ける。だけど何か足りない…。夜中に鳴き出す鶏の声、犬たちのほえる声、虫やトッコーの独特な鳴き声。そして、どこかで夜中まで爆音で行われてるディスコの音楽、人々が飲み踊り騒ぐ声、空に輝く天の川…。自分が生まれ育った日本なのに、なぜか寂しい。

日本においてお金は生活を左右する。フィリピンにおいても、お金がなくてつらい思いをしている人がたくさんいる。勉強したくてもお金がない。その結果、小学校にすら行けない子供がいる。新しい服や靴を買う金も十分にはない。だから、汚れても破けてもずっと同じ服を使っている。誰もがもっと豊かになりたいと願っている。そんなとても裕福とはいえない生活だが、村人たちはみんな楽しく毎日を生きている。

**NO trabajo NO money But I'm happy**

村でお世話になった大好きな友人の言葉である。

「仕事もない、お金もない、だけど俺はハッピーだ」と。

毎日働いて、昼寝して、歌って、踊って、酒飲んで… 村ではゆったりと時間が流れていく。同じ 24 時間が村では 2 日分ぐらいに感じられた。日本はこんなに豊かなのに、どうしてみんな険しい顔して 足早に街を通り過ぎて行くのだろうか。どうして明日の生活にすら希望を見いだせなくなるのだろうか…。家族と友人と恋人と笑って暮らせる。これ以上に求めることがあるだろうか。日本で感じていた物質的幸せがすごく小さくてどうでもいいことに思えた。でも、やはり日本に帰ってくると新しい服が欲しい、バッグが欲しい、お金が必要!物質的欲望にきりはない。だからバイトをしなないと!そうしてまた駆け足の毎日が始まる。だけど心の余裕は持ち続けたいと思う。毎日こうして暮らせることへの喜びをこれからも忘れないでいたい。フィリピンでの 1 カ月で学んだことは言葉にできないほどたくさんある。そんな貴重な経験ができたことを心から嬉しく思う。そして楽しくキャンプができたのは気の許せるキャンプメンバーのおかげである。ダグハンサラマッ!!





## ★おに

「オニも行けば？」先輩に軽く誘われ、軽い気持ちで参加を決めたフィリピンキャンプ。こんなに有意義で貴重な体験ができるとは思ってもみなかった。

フィリピンの人や自然、文化風習は日本とは似ても似つかず、初日から圧倒されっぱなしだった。そんな異国での生活の中で何よりもまず感じたのは人の温かさだった。子供から大人までみんなよく笑い、話しかけてくれた。言葉はわからなくてもその笑顔だけで来て良かったと思えた。そんな気持ちはホームステイが始まって更に強まった。たくさんの子供に囲まれて近所の人(誰とは言わない)と飲み語らう時間は、日本では経験することの出来ない、フィリピンで一番有意義な時間だったに違いない。色んな意味で。



途上国で行う活動の大切さでも、産業が無いなりの生活の仕方でも、何だっていい。学ぶべきことが多いキャンプだったはずだ。そんな中で自分が学べたことと言えば、フィリピン人の人の良さや子供の可愛さ、笑顔の素晴らしさぐらいかもしれない。でも本当は、そんな単純なことが何よりも大事で、それだけを学べるだけで、フィリピンに行く価値があると思った。

Dili ko kamo makalimtan. Daghang salamat!

## ☆みゆ

フィリピンから帰国して1カ月が経った今、フィリピンで過ごした3週間の思い返してみると、ほんとに夢のような日々だったなーと思います☆

中学生の頃からずっと海外でボランティアをやりたい！と思っていて、今回は school project だということもあり、FIWC のフィリピンキャンプに参加させていただきましたが、思っていたよりずっと、ずーっと楽しかったデス(\*^。^\*)！！凄く暑い中でのワークは、正直きつかったけれど、学校にいる子どもたちの笑顔を見たり、バヤニハンと会話することで頑張れました。また、初めてのホームステイや、青空教室、ジャパフェスは、どれも私



にとって貴重な体験だったと思います。活動を通して、日本人メンバーやフィリピンで多くの人々と出会うことができました。なにより、フィリピンの人々の人を歓迎する心やあたたかさに触れ、たくさんの友達ができたことがすごく嬉しかったです。今回のキャンプでフィリピンやそこに住む人々のことが大好きになりました。また、是非行きたいなーと思います (●^o^●)！！

## ★かず

「一緒にフィリピン行こうぜ！！」とオニに軽く誘われ、軽い気持ちで参加を決めたフィリピンキャンプ。こんなに有意義で貴重な体験ができるとは思ってもみなかったです。自身初海外ということで右も左もわからない状況でフィリピンに行ったのですが、始めから最後まで驚きの連続で、すべてが新鮮な充実した3週間でした。

中でも一番印象深かったのは子どもたちの笑顔(≧▽≦)フィリピンの子どもたちはめちゃくちゃかわいいのですよ。マジで・・・！！子ども好きな人はぜひフィリピンへ！！あと、日本人はフィリピンで結構モテるので、一生に1度は来るというモテ期がまだ来ていない人もぜひフィリピンへ！！

最後に、日本では絶対できない経験をたくさんさせてもらいました。本当に今回のキャンプに参加して本当によかったと心から思います。

みんな Daghan Salamat！！！！

## ★たかし

フィリピン人はみんなすごく温かかった。フィリピンを思い返すと1番に思い浮かぶのはそれだった。おなかをすかせて村を歩いていけば「飯食っていけ」と誘ってくれ、見知らぬ人にトイレ、風呂を貸してくれと頼んでも笑顔で了承してくれる。初対面、まったくの他人に対してのそのような接し方は今の日本ではあまり感じる事ができないと思う。時間ばかり気にして、仕事でせわしく動きまわって



いる日本とは違い、フィリピンは本当にゆっくりと時間が過ぎていったように感じる。お金はあまり無いのに、村人同士、そして日本人と村人間で交流をはかるためにお酒を買い、毎晩のようにちびちび飲みながら会話を交わして過ごす。そんな毎日がすごく楽しかった。私のステイ先のお父さんが言った発言に、「No trabajo No money, but I'm happy」という言葉が今でも心に残っている。「仕事は無いしさ、金も無いんだけど、それでも俺は幸せなんだ」って。最初はキャンパー同士でその言葉に対して笑っていたのだけど、日本に帰ってその言葉を思い返すとすごく深い言葉だなと思う。日本ではおそらくあまり感じる事のできなかつた考えを知ることができて、それだけでもこのキャンプに参加して良かったと思う。今回のキャンプに参加した目的は、他の人みたく立派な理由なんてなく、ただ単に自分の世界、視野を広げたい。今までTVや文字でしか知ることのなかった世界を体験したいというものだった。今回のフィリピンでのボランティア活動を通して、自分も大きく成長できたと思う。

言葉なんてほとんど通じてないけど、それでも一緒にバカやって叫んで、飲んで騒いで踊って、そんな毎日が本当に楽しかった。フィリピンで過ごしたキャンパーと、そして村人との思い出は一生物の宝物。みんなと一緒にキャンプを作れて本当に良かった。みんな  
Daghan Salamat!!

### ★やす

最初はただ単に違う世界を見たかったという単純な理由で参加した今回のフィリピンキャンプ、そこで体験したのは予想していたよりも遥かに多くのことだった。

圧倒的な自然、その中で生き活きと暮らす人々が住む村々、そして日本とは全く違った



価値観、宗教、生活・・・どれ一つとっても今までの考えをもう一度組み立てしなおす必要があると感じるには十分な刺激だった。そしてそんな刺激的な1カ月を共に過ごしたメンバー達からも感じることは多々あった。

そんな体験の一つ一つをこれからの生活に活かし繋げていくと同時に、またほかの土地にも行って、もっともっと新しい価値観に触れて、自分の考え方の幅を広げていきたいと思う。